

ID ZERO

あらゆる企業へ、AI開発をワンストップで。

データ解析から高精度な判別まで、

AIの可能性を最大限に引き出します。

高精度な
判別能力

柔軟な
カスタマイズ

多様な業界
に対応

業務
効率化

簡単導入

InterDream

価格のご案内

メインプラン

近日公開

	Free	Standard	Advanced
	14日間の無料トライアルプランです。モデル数やストレージ容量に制限がありますが、基本機能をすべて利用でき、いつでも解約可能です。 (要クレジットカード登録)	Web上でID ZEROの全機能を利用できます。モデル数やストレージ容量が増え、業務効率化をよりスムーズに実現します。	Standardプランに加えストレージ容量が倍増し、WebAPIが利用可能になります。大規模な運用や拠点追加に適しています。 (*1)
料金	無料	20万円/月(税別)	30万円/月(税別)
ストレージ容量	10GB	100GB	200GB
アノテーションツール	●	●	●
データセットの管理	●	●	●
AIモデルの生成(学習)	●	●	●
生成可能なAIモデル数	1	制限なし	制限なし
AIモデルの評価(推論)	●	●	●
WebAPI利用	—	—	● ¹

オプションプラン

	WebAPI利用 拠点追加	WebAPI実行回数 制限解除	推論実行環境 ID ZERO Runtime Environment (IZRE)
	1回のお申込みで1拠点を追加できます。複数拠点でのWebAPI活用を想定する場合に便利です。 (*2)	1回のお申込みで1日あたり5,000回の実行回数を追加できます。最大1万回/日まで増やせるため、高頻度利用に適しています。 (*3)	外部端末で推論実行が可能な環境を提供します。1台ごとにお見積り対応し、マルチプラットフォームへも対応可能です。 (*4)
料金	10万円/月(税別)	10万円/月(税別)	要お問い合わせ ⁴

(*1) 初期状態は1拠点・1日あたり5,000回まで実行可能です。

(*2) 複数拠点利用時は、必要回数分の拠点追加オプションのお申込みが必要です。

(*3) Advancedプランをお申込み後、WebAPI実行回数制限解除×1のお申込みで10,000回/日のWebAPIの実行が可能になります。

(*4) Advancedプランをお申込み頂いたお客様が対象となります。

詳細な条件や制限、価格はお問い合わせまたはWebサイトでご確認ください。

ID ZEROに関する
お問い合わせ



ID ZERO
特設Webサイト



独自の開発プロセス

1 アイデアを形にする

企画・要件定義 / phase



まず、解決したい課題や要望を整理し、AIを活用するための目的を明確にします。その上で使用するデータや必要な条件を定義することで、最終的な成功イメージを共有します。

2 アイデアを試す

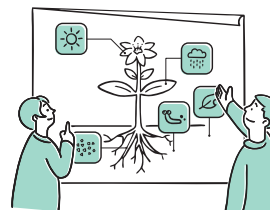
開発・PoC / phase



続いて小規模な実験(PoC)を行い、用意したデータでAIモデルの有効性を検証します。多くのアイデアの中から実運用に最適なものを見極めるステップです。この過程で精度面や実務への適合性を検討しながら改良点を見つけ出します。

3 AIを本格的に作る

導入・実装 / phase



PoC結果をもとに、本格的なAIシステムを構築します。開発計画を策定し、システム連携や本番運用に向けた準備を行います。将来どのような成果を得られるかを社内で共有し、導入後の運用体制を整えます。

4 AIを育てていく

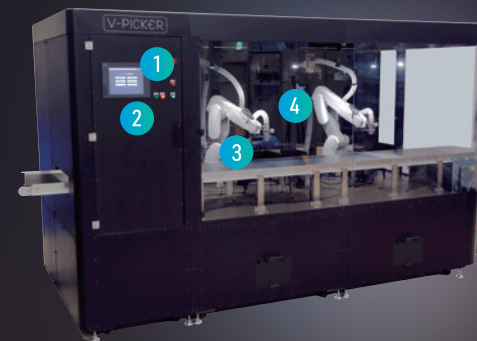
再学習・チューニング / phase



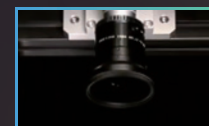
導入後は、AIモデルの性能を継続的に向上させるために再学習やチューニングを行います。最新のデータを取り入れ、環境変化に対応させることで、常に最適な結果を得られるように手入れを続けます。

AI搭載型選別ロボット V-PICKER

近畿工業株式会社との共同開発で生まれたV-PICKERは、ID ZEROの先端AI技術を活用し、従来は人手が必要だった金属有価物の選別や異物検出を自動化します。複数台の導入やユニット構造による柔軟な拡張性により、高精度な判別と効率的な生産体制、優れたコストパフォーマンスを実現します。

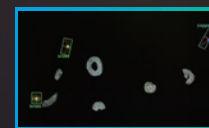


1 センサーユニット



対象物の色や形状、サイズなどの情報をカメラで瞬時に捉えて解析します。

2 ID ZEROによる判断と学習



対象物の材質、ピックアップ位置を判断。蓄積される対象物データをもとにAIを学習させ、選別精度を高めることが可能です。

3 ピッキング方式



対象物の種類や重さによって、ハンドを選択できます。

種類: 吸着式・磁着式・グリップ式

※写真はグリップ式

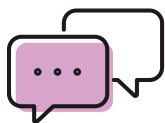
4 回収率UP



ロボットの複数台配置で、回収率がUPします。ユニット構造のため、ロボットの増設が容易です。

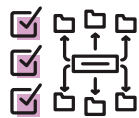
プロセスごとの工程

業務要件の洗い出し



実現したい業務目標を整理し、AI導入の方向性を定めます。

データの整理・準備



必要な情報を抽出・整備し、AIが分析しやすい状態にします。

導入目的の明確化



導入の狙いや期待効果をはっきりさせ、成果を測る基準を設定します。

PoCデータの用意・設定



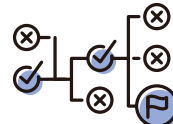
試験用のデータを用意し、AIモデルが実際に動く環境を整えます。

実業務視点での効果検証



普段の業務感覚でAIの有効性を確認し、現場に合うか判断します。

必要に応じた改善点の抽出



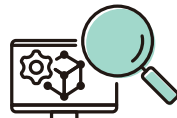
PoC結果から課題を洗い出し、より使いやすい形に調整します。

システム連携方法の検討



既存のシステムとどう結びつけるか考え、スムーズな運用を実現します。

動作確認テストの実施



本番利用前にしっかりテストし、問題なく動くか確かめます。

本番運用に向けた体制整備



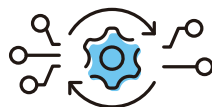
担当者や手順を整え、AIが安定して稼働できる状態を整備します。

新しいデータの反映・管理



新たなデータを随時取り込み、最新の状況に対応できるようにします。

追加要件の整理・対応



新たに出てきた要望に応え、必要な機能や設定を柔軟に見直します。

モデル精度の確認・改善



定期的に性能をチェックし、再学習などで精度を高めていきます。